

令和 3 年 6 月 18 日現在

機関番号：62618

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01934

研究課題名(和文) 海外連携による日本語学習者コーパスの構築および言語習得と教育への応用研究

研究課題名(英文) Construction of Japanese language learner corpus through overseas collaboration and applied studies to language acquisition and education

研究代表者

迫田 久美子 (Sakoda, Kumiko)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・名誉教授

研究者番号：80284131

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、2012年からの科研をふまえ、質的にも量的にも優れた日本語学習者コーパスを公開することであった。そこで、世界20地域のデータを文字化し、5回に分けて一般公開し、最終年度に完成させた。

その結果、(1) 12の異なる母語の日本語学習者1000人と日本語母語話者50人の多言語母語の日本語学習者横断コーパス：I-JAS (International corpus of Japanese as a second language,) を構築し、(2) 定期的な学習者コーパス研究会、ワークショップやシンポジウムを主催、(3) 国内外での発表を行い、I-JASの概要をまとめた書籍を出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で構築した多言語母語の日本語学習者横断コーパスI-JASは、現在、日本語学習者のコーパスとしては、学習者人数、異なる母語数、さらに収集されたタスクの種類数において世界最大規模である。加えて、発話の文字情報だけでなく、音声データも、さらに一部ではあるが、同一人物の作文データも公開されており、日本語の習得研究のみならず、他言語との対照研究、言語転移研究、異文化研究など、さまざまな方面からの研究が可能となっている。実際に、既にI-JASを利用した多くの研究が発表されている。以上の研究の実績や将来の可能性を考慮すると、本研究の成果であるI-JASが果たす社会的および学術的意義は大きいと考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to publish a Japanese language learners' corpus of large quantity and excellent quality, based on data collected from Japanese language learners in 20 different regions of the world. This data was collected and transcribed over the course of 8 years, beginning in 2012, and was published in 5 different segments, each comprised of data from 200 learners.

As a result of this study, we 1) constructed a corpus named the International Corpus of Japanese as a Second Language (I-JAS) comprised of data collected from 1000 Japanese language learners who are native speakers of 12 different languages, as well as 50 native Japanese speakers; 2) conducted learners' corpus study group sessions, workshops, and symposiums on a regular basis; and 3) gave presentations in Japan and abroad based on this research, as well as published a book that summarizes the contents of the I-JAS.

研究分野：日本語の第二言語習得研究

キーワード：日本語学習者コーパス I-JAS 第二言語習得研究 コーパス言語学 母語の影響 学習環境の影響 JFLとJSL 教室環境学習者と自然環境学習者

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、平成 24～27 年度科学研究費助成事業(基盤研究 A)「海外連携による日本語学習者コーパスの構築 - 研究と構築の有機的な繋がりに基づいて -」(課題番号 24251010)を受け、さらに発展させることを目標に、活動を開始した。以下に、本研究の背景と動機を述べる。

(1) 平成 21 年には、世界の日本語学習者の数は 365 万人となり、教育機関数や教員数も増加傾向を示し、日本語教育研究も盛んになった。日本語を対象とした第二言語習得研究や教育研究は依然として少ない。日本語習得研究・教育研究の遅れの大きな原因となっているのが、汎用性のある、まとまった日本語学習者コーパスの不在である。現状では、個々の研究者が自分の研究に見合った、非常に限られたデータベースを開発し、それをもとに研究を進めていて、他の研究者による検証や、研究成果に対して客観性のある判断を困難なものにしている。より実証的な研究のためには、学習者コーパスが必要であった。

(2) 平成 24 年頃に存在した学習者コーパスやコーパス研究には多くの問題点があることもわかってきた。(i)公開されている言語データも母語に限られ、長期の調査を要する縦断データが少ない ( )記述方法が統一されておらず、誤用タグも付けられていないため、利用が困難である ( )教室指導や教材などの学習者情報が不十分なため、考察に限界がある ( )客観的なレベル判定がなされていないため、コーパス間での比較ができない、などである。

(3) 比較可能で汎用性の高い日本語学習者のコーパスが求められ、先の科研で国内外でデータ収集を行ったが、大規模で、かつ多様なタスクのデータ収集により、データのコーパス化(文字化)やコーパス化に伴う諸経費の増大により、データの一般公開が難しくなった。そこで、平成 28～31 年度科学研究費助成事業(基盤研究 A)「海外連携による日本語学習者コーパスの構築および言語習得と教育への応用研究」(課題番号 16H01934)の申請を行った。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、先の科研(24251010)で得たデータに基づく多言語母語の日本語学習者横断コーパス(I-JAS)の完成と、英語・中国語学習者コーパスと連携し、海外研究協力者や若手研究員と共に第二言語・外国語教育に資する言語研究を行うこと、ITを活用した教材開発を行うことである。具体的には、

(1)12 言語の異なった母語の日本語学習者の発話・作文の大規模コーパスである「多言語母語の日本語学習者横断コーパス(I-JAS)」の一般公開

(2) コーパスを基盤に、国内・海外の研究者と共同研究を実施

(3)IT を活用したコミュニケーション能力養成のための研究および教材開発の 3 点である。

(1)多言語母語の日本語学習者横断コーパス(I-JAS)は、2016 年 5 月の第一次データの 225 名の一般公開に続き、計画通り 2017 年に第二次データ 225 名、2018 年に第三次データ 210 名、2019 年に第四次データ 215 名、そして 2020 年 3 月に残りの 175 名を公開し、全てのデータを備えた学習者コーパスが完成した。I-JAS は、英語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、ハンガリー語、トルコ語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ロシア語の異なった 12 言語の母語話者の日本語学習者のデータを有しており、全員が同じ統一テストを受験してレベルが明確になっている。これによって、レベル間の違いや母語の違いを要因とする研究をすることが可能となった。(2)中国語、韓国語、英語、フランス語、スペイン語に関して、同じ調査内容のそれぞれの母語話者による母語データを収集し、母語の場合と目標言語である日本語の場合との比較研究などを、国内・海外の研究者と共に進めている。(3)さらに、IT を活用した教材開発については、海外や国内の日本語教育研究者や英語教育研究者と共にシャドーイングに関する研究を行い、自動評価システムの開発、及び出版に向けての準備を進めている。

### 3. 研究の方法

本研究で開発した I-JAS は、他のコーパスに比べ、多くのタスクデータがあり、文字化の段階から汎用性を重視してコーパス化を進めた。具体的な作業プロセスと公開の手順、それに伴う研究会やシンポジウムの開催などを示したのが、図 1(次頁)である。

次に、I-JAS の特徴を 5 点示し、本コーパスが多様な研究方法に応用できることを述べる。

(1) 12 の異なった母語の日本語学習者 1000 名の大規模コーパスである。I-JAS では、言語類型的な観点から 12 の言語を抽出し、海外の教育機関で学ぶ学習者のデータ 850 名分を収集した。さらに、国内の日本語学習者についても教育機関で日本語を学ぶ教室環境の学習者 100 名と就労や結婚で日本に住みながら習得する自然環境の学習者 50 名のデータも収集している。これらのデータから、日本語習得にかかわる母語の要因(言語転移)、海外と日本在住の学習者を比較することで日本に住みながら学習する周囲のインプットの影響、さらには自然環境学習者との比較によって、教室指導の有無による習得への影響を調べることが可能となる。

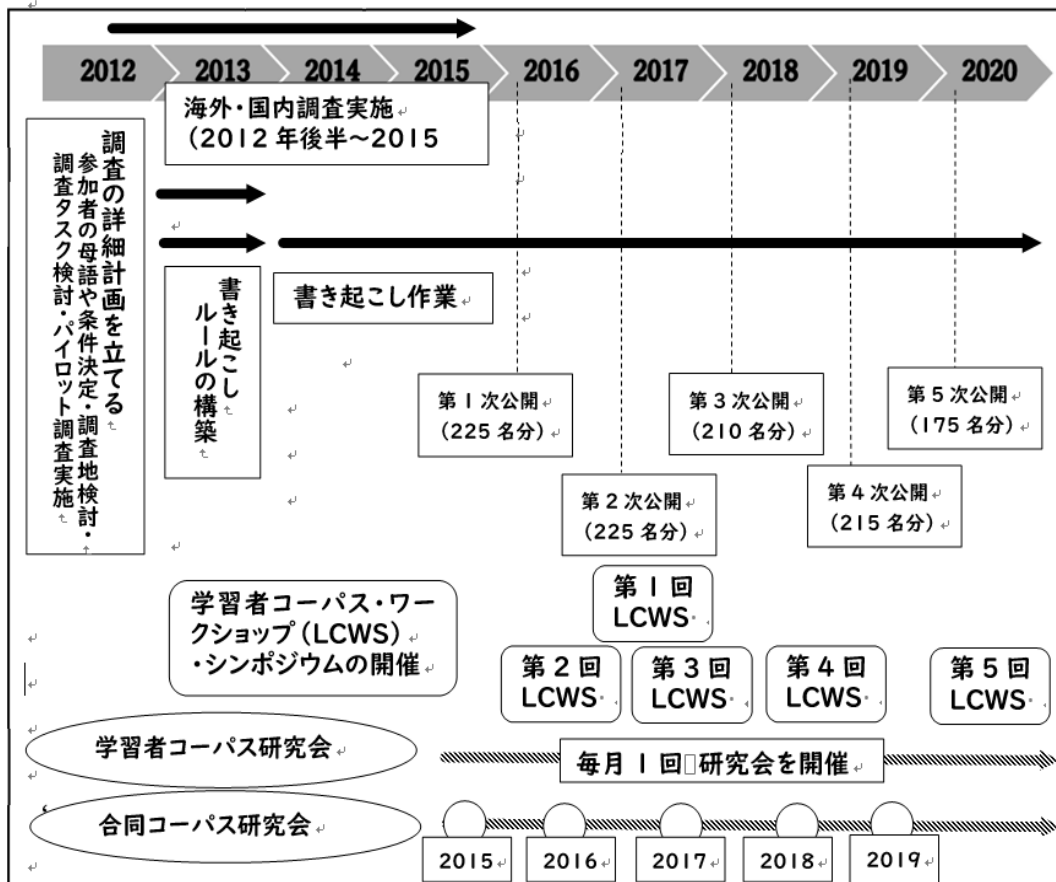


図1 I-JASの調査計画から完成までの作業プロセスと活動状況

- (2) 全員が統一された日本語能力テストを受け、その結果を公開している。学習者全員が2つの日本語能力テスト(J-CAT, SPOT)を受験し、その結果は学習者の背景情報として発話や作文のデータと共に、公開している。このことにより、レベルの違いに関する研究が可能となる。
- (3) 7つの異なったタスクを課し、同一の学習者の発話と作文のデータがある。半構成タイプの対話はもとより、4~5コマの漫画を見て物語を話したり書いたりするストーリーテリングや依頼と断りのロールプレイなど、7種類のタスクのデータが保有されている。
- (4) 学習者の詳細な背景情報を有し、公開している。学習者の家族構成、それぞれの母語、これまでの学習歴、また日本語を使つてのアルバイトの経験等、多岐にわたる各学習者の背景情報(Face Sheet)を作成し、コーパスと共に公開している。
- (5) 検索システム(中納言)によって、形態論情報が検索できる。中納言という検索アプリを備えており、I-JASの量的分析が容易にできる。

#### 4. 研究成果

本研究の目的は、先の科研で収集した学習者データをコーパス化して一般公開することであった。そして、図1に示す作業プロセスに沿って、毎年データを部分的に公開し、2020年3月に全てのデータを公開することにより、学習者コーパス I-JAS を完成させることができた。その間、2015年~2020年の間に5回の日本語学習者コーパス・ワークショップやシンポジウムを開催し、同時に I-JAS 利用の講習も行った。海外におけるコーパス研究のニーズも高まり、2014年~2020年の間、中国、台湾、ドイツ、イタリア、イギリス、マレーシア、タイ、ベトナム、インドネシア、オーストラリア、キルギス、インドなど多くの地域で I-JAS に関する講演や研究発表、ワークショップを行った。

また、I-JAS を利用した研究発表も年度を重ねるにつれて増加し、現在では、I-JAS のHPにそのデータが記録されている (<http://lsaj.ninjal.ac.jp/>)。

また、書籍も迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子(2016)『多言語母語の日本語学習者横断コーパス International Corpus of Japanese as a Second Language』『国語研プロジェクトレビュー』第6巻3号, 63-110. 国立国語研究所、2020年に I-JAS 使用のためのハンドブックとして迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬(編著)(2020)『日本語学習者コーパス I-JAS 入門』(くろしお出版)を出版した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計70件（うち査読付論文 34件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 26件）

1. 著者名 Ishikawa Shin'ichiro	4. 巻 -
2. 論文標題 S-genitives and Of-genitives Seen in English Native/ Non-native Speakers' Essays: A Study Based on the ICNALE Written Essays	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC2018)	6. 最初と最後の頁 166-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishikawa Shin'ichiro	4. 巻 8
2. 論文標題 Comparison of Three Kinds of Alternative Essay-Rating Methods to the ESL Composition Profile	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Computer-Assisted Language Learning and Teaching	6. 最初と最後の頁 32 ~ 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4018/IJCALLT.2018100103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 12
2. 論文標題 「わたしはマイク・ミラーです」を再考する：日本語コーパスの教育応用をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 高知大学留学生教育	6. 最初と最後の頁 1 ~ 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 414
2. 論文標題 現代日本語発話における男女話者による文末詞の使用 BTSJコーパスを用いた大学生発話の計量分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 統計数理研究所共同研究リポート	6. 最初と最後の頁 1 ~ 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎・石川有香・後藤一章・田中省作・田畑智司・中尾桂子	4. 巻 414
2. 論文標題 言語教育と言語研究に統計をどう活かすか：高見敏子氏の研究から考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 統計数理研究所共同研究リポート	6. 最初と最後の頁 169～182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 コーパスと言語教育：コーパスによって深化するL2語彙の教授	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 影山太郎・岸本秀樹（編）『レキシコン研究の新たなアプローチ』くろしお出版	6. 最初と最後の頁 153～173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野由紀子	4. 巻 30
2. 論文標題 日本語学習者に共通して見られる現象と母語による違い I-JAS のストーリー描写課題の分析より	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語教育連絡会議2017論文集	6. 最初と最後の頁 67～75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小口悠紀子	4. 巻 9
2. 論文標題 「話す」と「書く」という課題の違いが中級学習者の語りに及ぼす影響 個人内における接続表現の変異に着目して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語 / 日本語教育	6. 最初と最後の頁 183～196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Koguchi, Yukiko	4. 巻 22
2. 論文標題 Expressions to Describe an Unexpected event in Intermediate learners' writing: A Comparison with Oral Story Telling Tasks.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Language Education in Europe	6. 最初と最後の頁 473 ~ 481
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小西円	4. 巻 15
2. 論文標題 日本語学習者の習熟度別に見たフィラーの分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 91 ~ 105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00001598	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 迫田久美子	4. 巻 3
2. 論文標題 コミュニケーション能力を伸ばすには? コーパスから学ぶ学習者中心の教え方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 キルギス日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 4 ~ 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 迫田久美子・細井陽子	4. 巻 25
2. 論文標題 International Corpus of Japanese as a Second Language(I-JAS):日本語学習者の言語研究と指導のために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 英語コーパス研究	6. 最初と最後の頁 133 ~ 149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高嶋幸太・佐々木藍子・猪口綾奈	4. 巻 1
2. 論文標題 学習者・教師双方から見た『理解が深まる日本語の授業』とは	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語・日本語教育	6. 最初と最後の頁 139～151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Zhao Helen・Shirai Yasuhiro	4. 巻 4(2)
2. 論文標題 Arabic learners' acquisition of English past tense morphology	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Tense and aspect in Second Language Acquisition and Learner Corpus Research	6. 最初と最後の頁 253～276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/ijlcr.17006.zha	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Luk Zoe Pei sui・Shirai Yasuhiro	4. 巻 56(2)
2. 論文標題 The development of aspectual marking in Cantonese-English bilingual children	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Review of Applied Linguistics in Language Teaching	6. 最初と最後の頁 137～179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/iral-2014-0018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Zen, X.・Chen, S.・Shirai, Y.	4. 巻 -
2. 論文標題 Universals and transfer in the acquisition of the progressive aspect: Evidence from L1 Chinese, German, and Spanish learners' use of the progressive -ing in spoken English.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Review of Applied Linguistics in Language Teaching	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Akiha, T.・Shirai, Y.	4. 巻 -
2. 論文標題 How to effectively teach the polysemous Japanese particle -de in the classroom: Assessing the Projection Model in semantics.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cognitive linguistics and Japanese pedagogy: A usage-based approach to language learning and instruction	6. 最初と最後の頁 265 ~ 302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 砂川有里子	4. 巻 18 (2)
2. 論文標題 言語教育と文法研究との接点 非流ちょう性の研究から発話産出メカニズムの理論へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語文法	6. 最初と最後の頁 62 ~ 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 砂川有里子	4. 巻 -
2. 論文標題 中級以降で指導が必要なシテシマウの用法について 学習者と母語話者の使用状況調査に基づく考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 藤田保幸・山崎誠 (編) 『形式語研究の現在』 和泉書院	6. 最初と最後の頁 479 ~ 499
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 砂川有里子・黒沢晶子	4. 巻 -
2. 論文標題 フランス語と中国語を母語とする日本語学習者の漢語名詞の習得研究 自然発話に見られる発話の誤用分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大島弘子 (編) 『フランス人日本語学習者の誤用から考える』 ひつじ書房	6. 最初と最後の頁 21 ~ 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 曹英南	4. 巻 79
2. 論文標題 Use Aspects of “Na” Adjectives of Korean Students Learning Japanese Language - Based on the Data Collected from Beginning Level Essays during the Period of 4 Months -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Korean Journal of Japanese Language and Literature	6. 最初と最後の頁 141 ~ 159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18704/kjll.2018.12.79.141	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陳夢潔・張佩霞・吳宇馳	4. 巻 3
2. 論文標題 關於高校日語專業學生課堂焦慮的實証研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日語學習与研究	6. 最初と最後の頁 65-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張佩霞・張語柯	4. 巻 9
2. 論文標題 日語無標可能表達形成條件再探	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 漢日語言對比研究論叢	6. 最初と最後の頁 48-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東伴子	4. 巻 -
2. 論文標題 学習者の作文における恩恵表現「～てくれる」の使用をめぐる 日仏対照の観点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大島弘子(編)『フランス語を母語とする日本語学習者の誤用から考える』ひつじ書房	6. 最初と最後の頁 193-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南雅彦	4. 巻 3
2. 論文標題 日本語母語話者と日本語学習者の語りの発達 比較文化心理学と応用言語学の視点から眺めた言語教育	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語誤用と日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 3-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉怡伶	4. 巻 45
2. 論文標題 類義表現の副詞的成分「動名詞+的に」と「動名詞+して」について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東呉外語學報	6. 最初と最後の頁 17-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.29737/SJFLL	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 劉怡伶	4. 巻 30
2. 論文標題 日本語の談話標識「とすると」と「だとすると」: 構成要素と伝達機能	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 台湾日語教育學報	6. 最初と最後の頁 274-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.29758/TWRYJYSB	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曹英南	4. 巻 103
2. 論文標題 「教室日本語」の特徴と談話構造-カナダの大学の日本語教育の現場から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日語日文学研究 (韓国日語日文学会)	6. 最初と最後の頁 181-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuriko Sunakawa	4. 巻 33
2. 論文標題 Compilation of Japanese Learners' dictionaries	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Japanese Linguistics	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仁科喜久子、八木豊、ホドシチェック・ボル、阿部川武	4. 巻 31(2)
2. 論文標題 作文学習支援システムのための接続表現辞典構築	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 計量国語学	6. 最初と最後の頁 160-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Minami Masahiko	4. 巻 -
2. 論文標題 Second Language Acquisition of Japanese	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oxford Research Encyclopedias	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/acrefore/9780199384655.013.300	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 小西円	4. 巻 13
2. 論文標題 日本語学習者と母語話者の算出語彙の相違-I-JASの異なるタスクを用いた比較	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 79-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00001373	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishikawa Shin'ichiro	4. 巻 -
2. 論文標題 A Corpus-based Study of the Size and the Level of the Vocabulary Used by Japanese Learners of English at Different Proficiency Levels	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京外国語大学国際ワークショップ予稿集「外国語教育の変革：国際連携・高大連携・ICT」2017	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishikawa Shin'ichiro	4. 巻 -
2. 論文標題 A Reconsideration of the Needed Sample Size in Learner Corpus Studies	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国立国語研究所言語資源活用ワークショップ2017発表論文集	6. 最初と最後の頁 153-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00001516	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 31(2)
2. 論文標題 現代日本語における「デ」格の意味役割の再考：コーパス頻度調査に基づく用法記述の精緻化と認知的意味拡張モデルの検証	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 計量国語学(計量国語学会)	6. 最初と最後の頁 99-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南雅彦	4. 巻 10
2. 論文標題 言語習得理論と日本語教育	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日中言語研究と日本語教育	6. 最初と最後の頁 4-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野田尚史	4. 巻 10
2. 論文標題 学習者の習得困難点調査に基づく日本語教育文法の拡張	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日語教育と日本学	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野田尚史	4. 巻 10
2. 論文標題 日本語学習者のコミュニケーションに必要な多様な能力	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日中言語研究と日本語教育	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 迫田久美子, 蘇鷹, 張佩霞	4. 巻 10
2. 論文標題 中国語母語話者のロールプレイに見られる依頼表現 日本語学習者の「念押し」表現への言語転移の可能性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日中言語研究と日本語教育	6. 最初と最後の頁 50-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 砂川有里子, 清水由貴子	4. 巻 -
2. 論文標題 台湾の大学生による名詞述語文の習得状況 日本語学習者作文コーパスLARP at SCUと教科書の調査に基づいて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 習ったはずなのに使えない文法	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仁科喜久子、八木豊、ホドシチェック・ポル、阿部川武	4. 巻 -
2. 論文標題 誤用分析からみた作文指導への示唆	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 習ったはずなのに使えない文法	6. 最初と最後の頁 211-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野田尚史	4. 巻 -
2. 論文標題 「基本文型」の再構築	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 時間の流れと文章の組み立て 林言語学の再解釈	6. 最初と最後の頁 49-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 迫田久美子	4. 巻 5
2. 論文標題 私が『日本語教師だったころ』 「相手あつての自分」という考え	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語教育実践イマ×ココ	6. 最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 砂川有里子, 黒沢晶子	4. 巻 10
2. 論文標題 中国語を母語とする中級日本語学習者の発話に見られる中国語漢語名詞の使用状況 中国語の字音の影響を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日中言語研究と日本語教育	6. 最初と最後の頁 64-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishikawa Shin'ichiro	4. 巻 20
2. 論文標題 Learners' Acquisition and Use of L2 Japanese Vocabulary: Influence of L1 Backgrounds and L2 Proficiency Levels: A Learner Corpus-based Analysis	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第2言語としての日本語の習得研究	6. 最初と最後の頁 10-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 砂川有里子	4. 巻 -
2. 論文標題 ストーリーテリングにおける順接表現の談話展開機能	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 時間の流れと文章の組み立て	6. 最初と最後の頁 183-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishikawa Shin'ichiro	4. 巻 145
2. 論文標題 How L2 Learners' Critical Thinking Ability Influences Their L2 Performance: A Statistical Approach	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Advances in Social Science, Education and Humanities Research	6. 最初と最後の頁 70-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2991/iconelt-17.2018.17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥野由紀子	4. 巻 30
2. 論文標題 日本語学習者に共通して見られる現象と母語による違い I-JAS のストーリー描写課題の分析より	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語教育連絡会議論文集	6. 最初と最後の頁 67-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 400
2. 論文標題 L2日本語語彙の習得プロセスについて LARPコーパスに見る台湾人学習者による日本語作文の縦断分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 統計数理研究所共同研究レポート	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 迫田久美子	4. 巻 3
2. 論文標題 I-JASの開発と活用：L2日本語発話と作文の収集 「依頼」のロールプレイに見られる学習者のレベルと母語の影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Learner Corpus Studies in Asia and the World (LCSAW)	6. 最初と最後の頁 75-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 迫田久美子	4. 巻 3
2. 論文標題 日本語学習者の誤用産出のメカニズム - 学習者の文法・教師の文法 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語誤用と日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 53-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 望月圭子	4. 巻 3
2. 論文標題 中国語と日本語におけるアスペクト複合動詞の習得 「有界的」認知からみた中国語・日本語双方向学習者コーパスの分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語誤用と日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 83-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Kumiko Sakoda	4. 巻 1
2. 論文標題 A study on interlanguage of L2 Japanese based on learners' corpora-Japanese verbs in I-JAS-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Digital Resources for Learning Japanese	6. 最初と最後の頁 147-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koguchi Yukiko	4. 巻 22
2. 論文標題 Expressions to describe an unexpected event in intermediate learners' writing :A comparison with oral story telling tasks	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese language education in Europe	6. 最初と最後の頁 473-481
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小口悠紀子	4. 巻 9
2. 論文標題 「話す」と「書く」という課題の違いが中級学習者の語りに及ぼす影響 個人内における接続表現の変異に着目して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語 / 日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 183-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 5
2. 論文標題 日本人学習者のL2英語の発話量 : 母語話者及びアジア圏学習者との比較	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日英言語文化研究	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shin'ichiro Ishikawa	4. 巻 -
2. 論文標題 Strategy of identity-marking: A learner corpus-based study on use of the 1st person pronouns in L2 English essays/ speeches by Chinese, Japanese, and Korean learners	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Proceedings of The Sociolinguistic Society of Korea 2016 Autumn	6. 最初と最後の頁 91-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shin'ichiro Ishikawa	4. 巻 1
2. 論文標題 Use of That-Clauses After Reporting Verbs in Asian Learners' Speech and Writing: Frequency, Verb Type, and That-Omission	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 EPIc Series in Language and	6. 最初と最後の頁 202-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 日本語学習者コーパスの教育応用における留意点 『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』に見る母語話者L1産出データの安定性検証を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語資源活用ワークショップ2016予稿集	6. 最初と最後の頁 190-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00001474	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 外国語学習者による異なるL2産出における特徴的語彙使用の再現性 - 中国人英語 / 日本語学習者のL2産出に見る過剰・過小使用語彙の比較	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学習者コーパス第2回ワークショップ予稿集	6. 最初と最後の頁 57-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小口悠紀子	4. 巻 166
2. 論文標題 上級日本語学習者の「は」と「が」の知識と運用 未出か既出かによる使い分けに着目して	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本語教育	6. 最初と最後の頁 77-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西円	4. 巻 -
2. 論文標題 「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」の母語話者データにおけるタスクと産出語彙の関連	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語資源活用ワークショップ2016予稿集	6. 最初と最後の頁 95-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kumiko Sakoda	4. 巻 1
2. 論文標題 A study on interlanguage of L2 Japanese based on learners' corpora -Japanese verbs in I-JAS-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Digital Resources for Learning Japanese	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 迫田久美子	4. 巻 19
2. 論文標題 コーパスを利用した第二言語習得研究の可能性と課題 多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS) の構築に向けて (特別寄稿)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 第二言語としての日本語の習得研究	6. 最初と最後の頁 5-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中真理・迫田久美子・野田尚史	4. 巻 20
2. 論文標題 日本語学習者コースにおける対話 ロールプレイ, メール, エッセイの分析を通して	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ヨーロッパ日本語教育 2015ヨーロッパ日本語教育シンポジウム報告・発表論文集	6. 最初と最後の頁 102-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曹英南	4. 巻 -
2. 論文標題 韓国人日本語学習者の「イ形容詞」の使用と教師によるフィードバックの影響 - 4ヶ月間の初級作文資料をデータとして -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本語文学	6. 最初と最後の頁 89-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 望月圭子	4. 巻 92
2. 論文標題 日本語母語話者による英語・中国語における誤用：東京外国語大学国際英語・中国語学習者コースにみられる英語前置詞及び中国語“一+類別詞”の誤用	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 157-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Keiko Mochizuki	4. 巻 -
2. 論文標題 Exploring Effective Chinese/Japanese/English Pedagogy For Crossing Language Boundaries: Based on Tufs International Learners' Error Corpora	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the Papers: Consortium for Asian and African Studies, 7th International Conference	6. 最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉怡伶	4. 卷 26
2. 論文標題 現代日本語における難易を表す形容詞連用形の副詞の用法 容易さと困難さを表す用法の非対称性について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 台湾日本語教育學報	6. 最初と最後の頁 168-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 劉怡伶	4. 卷 27
2. 論文標題 能動型「である」の機能 「て おく」との比較を通して	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 台湾日本語教育學報	6. 最初と最後の頁 270-299
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計135件 (うち招待講演 85件 / うち国際学会 53件)

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Aspects of L2 Learners' English Speeches: A Study Based on the ICNALE
3. 学会等名 The 21st Conference of the Oriental COCOSDA (International Committee for the Co-ordination and Standardisation of Speech Databases and Assessment Techniques) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 日本語・日本語教育研究の新視点 - コーパスから得られる言語事実を立脚点として -
3. 学会等名 高知大学国際連携推進センター主催平成30年度講演会及びワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 (ワークショップ) 日本語教育研究者のための統計入門
3. 学会等名 高知大学国際連携推進センター主催平成30年度講演会及びワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 コーパスに基づくL2ライティング指導: よい作文とはなにか
3. 学会等名 大阪大学「教員のための英語リフレッシュ講座2018」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 日本語・日本語教育研究者のためのコーパス入門 ~計量的言語研究の魅力と課題~
3. 学会等名 東京外国語大学大学院国際日本学研究院 日本語教育専攻学生のための研究セミナー(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 L2語彙力の発達をどう見取るか? どう数えるか?
3. 学会等名 第四回 学習者コーパス・ワークショップ & シンポジウム 第二言語習得における語彙の役割 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 コーパスで外国語教育はどう変わるか：「未来志向の日本語教育」のためにコーパスができること
3. 学会等名 筑波大学 CEGLLOC 日本語・日本事情遠隔教育拠点シンポジウム「未来志向の日本語教育」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 言葉を数えてわかることとわからないこと - 新しい日本語教育の創造のためにコーパスができること -
3. 学会等名 中国語話者のための日本語教育研究会第44回研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小口悠紀子
2. 発表標題 日本語学習者の物語発達にあらわれる評価表現 母語話者との比較の観点から
3. 学会等名 第4回学習者コーパス・ワークショップ&シンポジウム-第二言語習得における語彙の役割 -（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 日本語教育におけるコミュニケーション能力の養成
3. 学会等名 中國文化大學外國語文學院日本語文學系國際學術研討會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 コミュニケーション能力を伸ばすには？
3. 学会等名 第2回キルギス日本学・日本語教育国際研究大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 迫田久美子・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子
2. 発表標題 日本語のモダリティ『かなと思う』 コミュニケーション機能と学習者の言語使用
3. 学会等名 平成30年度コーパス合同シンポジウム『コーパスに見る日本語のバリエーション モダリティ研究の可能性』（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 学習者コーパス研究の可能性
3. 学会等名 西安日本語教師研修会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 迫田久美子・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子
2. 発表標題 学習者コーパスを活用したモダリティ研究の可能性
3. 学会等名 NINJALシンポジウム「データに基づく日本語研究」
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 学習者のデータから考える日本語教育 理論は実践に役立つか
3. 学会等名 第四回「日本語教育の理論と実践を繋ぐ」シンポジウム・国際交流基金（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木藍子
2. 発表標題 日本語教育研究のためのコーパス構築と活用法
3. 学会等名 2018年度 横浜国立大学大学院 日本語教育領域 修士論文中間発表会・夏合宿（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木藍子
2. 発表標題 日本語学習者における接続助詞『から』の発達過程 - 『だ』の脱落・付加の誤用に着目して -
3. 学会等名 2018年度 横浜国立大学大学院 日本語教育領域 修士論文中間発表会・夏合宿（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中真理・坪根由香里・佐々木藍子・影山陽子・阿部新
2. 発表標題 ライティング評価におけるフローチャートの開発：評価の一致を目指す場合
3. 学会等名 2018年日本語教育国際研究大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 影山陽子・佐々木藍子・田中真理
2. 発表標題 欧州日本語学習者によるライティングのレベル別サンプル - ホリスティック評価とマルチプルトレイト評価から見える多様性 -
3. 学会等名 2018年日本語教育国際研究大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木 藍子・砂川 有里子・浅原 正幸
2. 発表標題 日本語の非流ちょう性 - とぎれと延伸の数量調査から -
3. 学会等名 言語資源活用ワークショップ2018 国立国語研究所
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木藍子
2. 発表標題 日本語学習者における接続助詞「～から」の発達過程の汎用性検証 - 接続助詞「～ので」「～のに」を対象に -
3. 学会等名 第四回学習者コーパス・ワークショップ&シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐々木藍子
2. 発表標題 I-JAS中納言の使い方 実践練習 既修者コース
3. 学会等名 第四回学習者コーパス・ワークショップ&シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuhiro Shirai
2. 発表標題 Lexical and grammatical aspect in language acquisition, processing, and disorders.
3. 学会等名 Invited lecture as LABEX International Chair (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuhiro Shirai
2. 発表標題 The acquisition of relative clauses: A crosslinguistic, corpus-based approach.
3. 学会等名 Invited lecture as LABEX International Chair (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuhiro Shirai
2. 発表標題 The current state of the Aspect Hypothesis: Exceptions that prove the rule.
3. 学会等名 Invited lecture as LABEX International Chair (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuhiro Shirai
2. 発表標題 Corpus-based language research: Its promises and limitations.
3. 学会等名 Invited lecture as LABEX International Chair (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuhiro Shirai
2. 発表標題 Where do prototypes come from? An input-output analysis of the basic verb put in first language acquisition.
3. 学会等名 the 10th ICCG (International Conference on Construction Grammar) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuhiro Shirai
2. 発表標題 The current state of the Aspect Hypothesis.
3. 学会等名 Buckeye East Asian Linguistics Forum 3 (BEAL Forum 3) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 J. Ryu・Y. Shirai
2. 発表標題 The L1 Acquisition of Tense-Aspect Markers -ess (past-perfective) and -ko iss- (progressive) in Korean.
3. 学会等名 the 43rd Annual Boston University Conference On Language Development (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井恭弘
2. 発表標題 Connectionism and second language acquisition
3. 学会等名 東北大学国際文化研究科講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井恭弘
2. 発表標題 第1・第2言語習得におけるアスペクト仮説の現状
3. 学会等名 学習者コーパス研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 翻訳リソースとしてのコーパスの活用法およびその指導
3. 学会等名 2018年度大学日本語セミナー「タイの日本語教育における翻訳授業を考える」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 コミュニケーションのための日本語学習辞書を求めて
3. 学会等名 国際シンポジウム『コミュニケーションのための日本語学習辞書を求めて』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 日本語教育に役立つコーパスの使い方
3. 学会等名 国際シンポジウム「新世代の日本語学習」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 日本語教育と研究に役立つコーパス調査の方法
3. 学会等名 日台交流協会・台湾大学総合教学館（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 日本語教育と研究に役立つコーパス調査の方法
3. 学会等名 日台交流協会・静宜大学伯鐸樓(外語學院)（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 日本語教育に役立つコーパスの使い方
3. 学会等名 日台交流協会・実践大学高雄校区高雄市教学中心（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 言語教育と文法研究との接点 - 非流ちょう性の研究から発話産出メカニズムの理論へ -
3. 学会等名 日本語音声コミュニケーション学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 学習者コーパスを使った日本語の談話分析
3. 学会等名 新潟大学大学院現代社会文化研究科特別講義（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 日本語教育に役立つコーパスの使い方
3. 学会等名 小出記念日本語教育研究会特別企画ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 日本語教師のための便利なウェブサイト
3. 学会等名 Teaching Method Seminar organized and held by J-SAT Co., Ltd（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 張佩霞・尹成美
2. 発表標題 中国語の動結式「V成」と日本語における対応表現の対照研究
3. 学会等名 第10 回中日対照言語学シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 張佩霞
2. 発表標題 述部のテンス・アスペクトから見る「今」と「今から」の意味機能
3. 学会等名 2018年日本語の誤用及び第二言語習得研究国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陳エン如
2. 発表標題 日中両言語における数量表現に関する研究
3. 学会等名 2018年度輔仁大学日本語文学科創立50周年 台湾日本語文学会創立30周年記念国際シンポジウム（台湾日本語文学会）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 仁科喜久子
2. 発表標題 科学技術日本語のこれまでとこれから-学習支援とコーパス利用-
3. 学会等名 International Symposium Japanese Language Learning for New Generations 6th September 2018（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoko Higashi
2. 発表標題 La requete et le refus : une approche pragmatique contrastive a partir d'un corpus d'apprenants.
3. 学会等名 13eme colloque de la Societe Francaise de l'Etudes Japonaises (SFEJ), Paris
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 細井陽子・須賀和香子
2. 発表標題 I-JAS中納言の使い方 実践練習 初心者コース
3. 学会等名 第四回学習者コーパス・ワークショップ&シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 南雅彦
2. 発表標題 「語る」というタスクから考える言語理解と言語教育
3. 学会等名 日本語サロン研修会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 南雅彦
2. 発表標題 「語る」という行為から見えてくる日本語、そしてその背後にある日本文化
3. 学会等名 第80回文化の社会経済研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masahiko Minami
2. 発表標題 Analyzing Japanese-language learners' narratives in the context of language education
3. 学会等名 Foreign Language Association of Northern California (FLANC) Fall 2018 Conference and Workshops
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 南雅彦
2. 発表標題 日本語学習者の「語り」から見えてくる習熟度 - 語彙・時制・視点 -
3. 学会等名 第四回学習者コーパス・ワークショップ&シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 南雅彦
2. 発表標題 「優れた語り」とは何か：一貫性と結束性から考える日本語学習者の語り
3. 学会等名 日本語サロン研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野田尚史
2. 発表標題 日本語コミュニケーション教育に必要な文法
3. 学会等名 南京農業大学人文社会科学学部外国語学院日本語系講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 学習者の心に火をつける教え方を目指して 第二言語習得研究と日本語指導の接点
3. 学会等名 アクラス研修会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 私が日本語教師だったころ - 教育実践をあらためて振り返る -
3. 学会等名 言語教育実践イマ×ココフォーラム2017 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小口悠紀子
2. 発表標題 物語発話における既出の対象の省略と母語話者評価 習熟度が異なる中国語母語話者による日本語談話を対象に
3. 学会等名 2017年日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫田久美子, 佐々木藍子, 須賀和香子, 細井陽子
2. 発表標題 学習者コーパスの構築に関するケーススタディ 調査計画のプロセスから学ぶ
3. 学会等名 2017年度日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chihiro Kinoshita Thomson
2. 発表標題 Episodes of learning in I-JAS data, a sociocultural perspective
3. 学会等名 the Biennial Conference of Japanese Studies Association of Australia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kumiko Sakoda
2. 発表標題 An investigation of language transfers in I-JAS data, focusing on expressions of request
3. 学会等名 The Japanese Studies Association of Australia: JSAA (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 南雅彦
2. 発表標題 第一言語習得と第二言語習得をつなぐーマクロとミクロのナラティブ構造視点からの考察ー
3. 学会等名 第10回実用言語学国際会議 (ICPLJ10) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 日本語学習者コーパスI-JASを使った日本語教育研究
3. 学会等名 第30回日本語教育連絡会議 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 学習資源としての語学辞書について考える
3. 学会等名 第21回ヨーロッパ日本語教師会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 南雅彦
2. 発表標題 日本語母語話者と日本語学習者の語りの発達 比較文化心理学と応用言語学の視点から眺めた言語教育
3. 学会等名 2017年日本語の誤用及び第二言語習得研究国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 望月圭子
2. 発表標題 中国語・英語からみた日本語のアスペクト複合動詞
3. 学会等名 日本語の誤用と日本語教育(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 南雅彦
2. 発表標題 比較文化心理学の視点から眺めた文化と言語教育 異文化の中での談話のインタラクションから
3. 学会等名 会話・談話研究シンポジウム「日本語教育の新展開 - 談話研究の可能性(1) - 」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Japanese Learners' L2 English Outputs
3. 学会等名 国際ワークショップ「外国語教育の変革: 国際連携・高大連携・ICT」2017(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Keiko Mochizuki, Ya-Ming Shen, Noboru Oyanagi, Haiting Wu, Zheng Zhang & Laurence Newbery-Payton
2. 発表標題 Characteristic errors made by Japanese learners of foreign languages: a corpus based comparison of learners in Japan, China and Taiwan
3. 学会等名 国際ワークショップ「外国語教育の変革：国際連携・高大連携・ICT」2017（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 ICNALE独話・対話モジュールの開発と活用 変数としての発話モード
3. 学会等名 Learner Corpus Studies in Asia and the World 2017（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 ICNALE- Edited Essays : エラーアナリシスを超えて
3. 学会等名 Learner Corpus Studies in Asia and the World 2017（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 I-JASの開発と活用：L2日本語発話と作文の収集
3. 学会等名 第3回 アジア圏学習者コーパス国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 ワークショップ：学習者コーパス研究入門：日本語学習者・英語学習者のL2産出をどう評価するか
3. 学会等名 第57回（2017年度）外国語教育メディア学会（LET）全国研究大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 日本語研究の新しい視点：コーパスが明らかにする言語事実
3. 学会等名 第九屆漢日対比語言学研討会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野田尚史
2. 発表標題 学習者は現実の日本語をどのように聞きとっているか？
3. 学会等名 英国日本語教育学会 第20回BATJ年次大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 How L2 Learners' Critical Thinking Ability Influences Their L2 Performance: A Statistical Approach
3. 学会等名 2017 International Conference English Language Teaching (ICONELT) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 学習者と共に学び育つ教師を目指して 第二言語習得研究が役に立つこと
3. 学会等名 浜松日本語学院特別研修講義（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 日本語学習者に共通して見られる現象と母語による違い I-JAS のストーリー描写課題の分析より
3. 学会等名 日本語教育連絡会議第30会議（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中真理，阿部新，影山陽子，佐々木藍子，坪根由香里
2. 発表標題 ヨーロッパ日本語学習者のライティング（エッセイ）分析：総合的評価とマルチプルトレイト評価結果を参照して
3. 学会等名 The 15th EAJIS International Conference/第 21 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Koguchi Yukiko
2. 発表標題 Expressions to describe an unexpected event in intermediate learners' writing: A comparison with oral story telling tasks
3. 学会等名 EAJS2017 15th International Conference of the European Association for Japanese Studies（国際学会）
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 野田尚史
2. 発表標題 日本語コミュニケーション教育のための文法
3. 学会等名 オランダ日本語教師会 講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 学習者コーパス研究における標本数の問題
3. 学会等名 言語資源活用ワークショップ2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫田久美子, 蘇鷹, 張佩霞
2. 発表標題 中国人日本語学習者の「念押し」表現に見る母語の影響 - I-JASのロールプレイにおける依頼表現に基づいて -
3. 学会等名 2017年度言語資源活用ワークショップ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 How learners' L2 English Essays Are Edited
3. 学会等名 The Globalization and Localization in Computer-Assisted Language Learning (GLoCALL) Conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫田久美子, 細井陽子
2. 発表標題 学習者コーパスに見る言語環境の違いとコミュニケーション
3. 学会等名 2017年度コーパス合同シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 日本語学習者コーパスを使った日本語教育研究
3. 学会等名 ネール大学講演会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 International corpus of Japanese as a second language : 日本語学習者の言語研究と指導のために
3. 学会等名 英語コーパス学会第43回大会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 A Frontier in Learner Corpus Studies: For Better Understanding of L2 Learners
3. 学会等名 英語コーパス学会第27回大会(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 日本語学習者コーパスを使った日本語教育研究
3. 学会等名 オーストリア日本語教師会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 L2学習者の「文体」 学習者コーパス分析からの知見
3. 学会等名 日本文体論学会第112回大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 日本語教育の新たな動き ICTを利用した日本語指導と日本語学習
3. 学会等名 インドネシア教育大学 特別講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 教材コーパス・入試コーパス・学習者コーパスに見る日本人学習者の連語使用：インプットとアウトプットの差を探る
3. 学会等名 外国語教育メディア学会（LET）関西支部基礎理論研究部会主催2017年度公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫田久美子, 佐々木藍子, 須賀和香子, 細井陽子
2. 発表標題 学習者コーパスの構築に関するケーススタディ - 調査実施とデータ整備のプロセスの課題 -
3. 学会等名 2017年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木 藍子, 阿部 新
2. 発表標題 日本語学習者のエッセイに見られる評価群別の言語特徴 I-JASにおけるヨーロッパ学習者のデータを対象に
3. 学会等名 第三回 学習者コーパス・ワークショップ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 細井陽子, 迫田久美子
2. 発表標題 日本語習得における言語環境とレベルの違いの影響 - 「依頼」のロールプレイの言語使用に基づいて -
3. 学会等名 第三回 学習者コーパス・ワークショップ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小西円
2. 発表標題 学習者のレベルごとに見た感動詞の使用の変化 フィラーに注目して
3. 学会等名 第三回学習者コーパスワークショップ
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 コーパスを活用した日本語の研究
3. 学会等名 アダム・ミツキエピッチ大学日本研究30周年記念国際学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Evaluation of Learners' L2 English Essays: Comparison of Three Approaches
3. 学会等名 International Conference on ESP, New Technologies and Digital Learning (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 日本語学習者の安全な誤用と危険な正用 - 学習者コーパスI-JASからわかる環境要因 -
3. 学会等名 OPI研究会 第95回定例研究会講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 トムソン木下千尋
2. 発表標題 I-JASデータから見える学習者の学びー社会文化アプローチのレンズを通して
3. 学会等名 学習者コーパス研究会（1月例会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 学習者言語の視点から考える - 言語研究と言語教育を繋ぐ -
3. 学会等名 国際シンポジウム「国際日本学を考える 日本語と日本語教育」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野田尚史
2. 発表標題 日本語学習者の聴解困難点と聴解技術
3. 学会等名 平成29年度国立国語研究所日本語教師セミナー「学習者は日本語をどう理解しているか 聴解・読解の困難点とその指導」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野田尚史
2. 発表標題 日本語学習者の聴解・読解における日本語のバリエーションの難しさ
3. 学会等名 日本語・日本語教育研究会「日本語のバリエーションと日本語教育」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 東伴子
2. 発表標題 依頼行為におけるバリエーション 学習者コーパスから
3. 学会等名 日本語のバリエーションと日本語教育(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 縦断的な発話データから見る日本語学習者の言語変化 社会・文化的アプローチからの考察
3. 学会等名 沖縄県日本語教育研究会第15回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 Quantitative Approach to Aspects of L2 English Use by Learners: A Study Based on Learner Corpora
3. 学会等名 The 2nd NTU-Kobe Joint Workshop on Data Science (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小口悠紀子
2. 発表標題 日本語学習者を対象とした第二言語習得研究の理論と方法 主題をあらわす「は」の習得研究から見えてきたこと
3. 学会等名 中国語話者のための日本語教育研究会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 A Study on the Relationship between L2 Fluency and L2 Proficiency of Japanese Learners of English
3. 学会等名 Focus on Language2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 第二言語習得研究から学ぶ日本語教育 学習者言語が語る指導の要素
3. 学会等名 FD講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 L2日本語語彙の習得プロセスについて LARP at SCUコーパスに見る台湾の学習者による日本語作文の時系列変化
3. 学会等名 統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計2018」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 東アジアの言語研究とL2教育研究～コーパスが拓く学際研究の領野～
3. 学会等名 大学英語教育学会東アジア英語教育研究会第166回（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 世界の学習者コーパス研究の現状と日本語学習者コーパスへの期待
3. 学会等名 湖南大学日本語教育国際シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2016年



1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 世界の英語学習者コーパス研究の潮流 : How から Why へ
3. 学会等名 第一回学習者コーパスワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 石川慎一郎
2. 発表標題 多様な外国語学習者の言語使用特性 - 中国人英語 / 日本語学習者のL2過剰・過小使用語彙 -
3. 学会等名 第二回学習者コーパスワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 奥野由紀子・呉佳穎
2. 発表標題 縦断的なOPIデータに見られる発話スタイルの変化 学習者をとりまく環境からの考察
3. 学会等名 ヨーロッパ日本語教師会 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 奥野由紀子・佐藤礼子
2. 発表標題 ライティング評価による内容言語統合型学習 (CLIL) の有効性の検討 トレイトを用いた作文課題の比較
3. 学会等名 日本語教育国際研究大会 ICJLE2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 奥野由紀子
2. 発表標題 「話す」と「書く」に見られる パリエーションには何が 起因しているのか? - ストーリー描写課題の結末部に着目して - 」
3. 学会等名 第一回学習者コーパスワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小口悠紀子・山田実樹
2. 発表標題 日本語学習者の作文に表れる主述の不一致 中国語母語話者と韓国語母語話者を対象に
3. 学会等名 第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小口悠紀子
2. 発表標題 中級学習者の談話展開における意外性を表す「が」の使用-多言語母語の日本語学習者横断コーパス(I-JAS)の分析を通して
3. 学会等名 日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小西円
2. 発表標題 I-JASにおける語彙の分析から見えること
3. 学会等名 第一回学習者コーパスワークショップ(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小柳かおる・向山陽子・峯布由紀
2. 発表標題 第二言語習得の個人差が言語能力の発達過程に及ぼす影響 習得の認知的メカニズムと基本的認知能力との関係
3. 学会等名 日本語教育国際研究大会 ICJLE2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kumiko Sakoda
2. 発表標題 What can we learn from the Japanese language learner corpus?
3. 学会等名 The 16th Processability Approachs to Language Acquisition 2016(PALA 2016) (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 学習者の発話データに基づく日本語の習得：学習者のロールプレイに見られる話し手の依頼表現(2) レベル差の観点から
3. 学会等名 日本語教育国際研究大会 ICJLE2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 学習者コーパスを用いた日本語教育研究の可能性と広がり
3. 学会等名 国立国語研究所日本語教師セミナー(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 新しい日本語学習者コースの構築：I-JASの概要と研究への展開
3. 学会等名 湖南大学日本語教育国際シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 迫田久美子・野山広
2. 発表標題 学習者コースに見る外国人と日本人のコミュニケーション
3. 学会等名 国立国語研究所日本語教育研究領域合同研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 迫田久美子
2. 発表標題 日本語学習者における助詞の誤用と習得研究
3. 学会等名 第三回コース合同シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木藍子
2. 発表標題 学習者の発話データに基づく日本語の習得：学習者の対話に見られる接続助詞『から』の発達過程 母語・レベルの観点から
3. 学会等名 日本語教育国際研究大会 ICJLE2016
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 I-JASを使った非流ちょう性の研究
3. 学会等名 日本語音声コミュニケーション教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 日本語学習者コーパスを使った習得研究
3. 学会等名 湖南大学日本語教育国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 砂川有里子
2. 発表標題 日本語母語話者の言語使用特性 - 学習者との比較からみえてくること -
3. 学会等名 第二回学習者ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 曹英南
2. 発表標題 言いさし表現に関する日本語と韓国語の語用論的研究
3. 学会等名 学習者コーパス研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 張佩霞
2. 発表標題 「の」の過剰使用と名詞の統語的用法の過剰般化 多言語母語の日本語学習者横断コーパスのデータを通して
3. 学会等名 湖南大学日本語教育国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 仁科喜久子
2. 発表標題 日本語学習者の言語使用特性 - 誤用分析から「書き言葉」の作文指導へ -
3. 学会等名 第二回学習者コーパスワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 望月圭子
2. 発表標題 多様な外国語学習者の言語使用特性 - 日本語・中国語・英語の学習者の時間・空間に関わる誤用比較 -
3. 学会等名 第二回学習者コーパスワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 細井陽子
2. 発表標題 学習者の発話データに基づく日本語の習得：学習者の絵描写タスクにみられる存在表現 母語別の観点から
3. 学会等名 日本語教育国際研究大会 ICJLE2016
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 野山広
2. 発表標題 日本語学習者コーパス研究の展望
3. 学会等名 国立国語研究所日本語教師セミナー（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 李在鎬、石川慎一郎、砂川有里子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 304
3. 書名 新・日本語教育のためのコーパス調査入門	

1. 著者名 森篤嗣、田中祐輔、中俣尚己、奥野由紀子、建石始、岩田一成	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 164
3. 書名 コーパスで学ぶ日本語学 日本語教育への応用	

1. 著者名 Yasuhiro Shirai	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 152
3. 書名 Connectionism and second language acquisition. (Cognitive Science and Second Language Acquisition Series)	

1. 著者名 于康・林璋・張佩霞・高永茂・呂芳・向坂卓也・徐愛紅・高山弘子・彭広陸・于一楽・朴秀娟・黄毅燕・蘇鷹・野村登美子・母育新・陳昌柏・裴麗・肥田菜奈	4. 発行年 2018年
2. 出版社 浙江工商大学出版社	5. 総ページ数 244
3. 書名 日語偏誤与日語教学研究叢書 第3卷 日語格助詞的偏誤研究：下	

1. 著者名 村岡貴子・鎌田美千子・仁科喜久子（編） 脇田里子・ボル ホドシチェク・八木豊・阿辺川武・中島祥子・石黒圭・仁科浩美・堀一成・近藤彩・因京子（著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 223
3. 書名 大学と社会をつなぐライティング教育	

1. 著者名 劉怡伶	4. 発行年 2018年
2. 出版社 致良出版	5. 総ページ数 279
3. 書名 現代日本語の副詞的成分：形容詞連用形と動詞「て」形を中心に	

1. 著者名 Shirai, Y. & Juffs, A.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 London: Sage Publications.	5. 総ページ数 -
3. 書名 Convergence and divergence in functional and formal approaches to SLA. Special Issue of Second Language Research.	



1. 著者名 Minami, Masahiko	4. 発行年 2017年
2. 出版社 San Francisco: San Francisco State University	5. 総ページ数 139
3. 書名 Journal of Japanese Linguistics, volume 33 special issue: New directions in Japanese-language education	

1. 著者名 Masayoshi Shibatani, Shigeru Miyagawa and Hisashi Noda (eds.)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Berlin/Boston: De Gruyter Mouton	5. 総ページ数 894
3. 書名 Handbook of Japanese Syntax.	

1. 著者名 南雅彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京：くろしお出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 社会志向の言語学－豊富な実例と実証研究から学ぶ－	

1. 著者名 南雅彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京：好文出版	5. 総ページ数 88
3. 書名 日中言語研究と日本語教育：特集 言語習得理論の歴史的変遷と日本語教育，中国語を母語とする日本語学習者の諸問題	

1. 著者名 【編】Ishikawa Shin'ichiro【著】石川 慎一郎 他全24名	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Kobe University	5. 総ページ数 323
3. 書名 Learner Corpus Studies in Asia and the World Vol.3	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>学習者コーパスに基づく第二言語としての日本語の習得研究 (LSAJ)  <a href="http://lsaj.ninjal.ac.jp/">http://lsaj.ninjal.ac.jp/</a>          オンラインの日本語ライティング評価 教師支援ツール: GoodWriting Rater  <a href="https://goodwriting.jp/wp/system-data">https://goodwriting.jp/wp/system-data</a>          学習者コーパスに基づく第二言語としての日本語の習得研究  <a href="http://lsaj.ninjal.ac.jp/">http://lsaj.ninjal.ac.jp/</a>          学習者コーパスに基づく第二言語としての日本語の習得研究 (LSAJ)  <a href="http://ninjal-sakoda.sakura.ne.jp/lsaj/">http://ninjal-sakoda.sakura.ne.jp/lsaj/</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	野田 尚史 (Noda Hisashi) (20144545)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・教授  (62618)	
研究分担者	田中 真理 (Tanaka Mari) (20217079)	名古屋外国語大学・外国語学部・名誉教授  (33925)	
研究分担者	李 在鎬 (Lee Jae-ho) (20450695)	早稲田大学・国際学院(日本語教育研究科)・教授  (32689)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	砂川 有里子  (Sunakawa Yuriko)  (40179289)	筑波大学・人文社会系（名誉教授）・名誉教授   (12102)	
研究分担者	松見 法男  (Matsumi Norio)  (40263652)	広島大学・教育学研究科・教授   (15401)	
研究分担者	野山 広  (Noyama Hiroshi)  (40392542)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・准教授   (62618)	
研究分担者	奥野 由紀子  (Okuno Yukiko)  (80361880)	首都大学東京・人文科学研究科・准教授   (22604)	
研究分担者	望月 圭子  (Mochizuki Keiko)  (90219973)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授   (12603)	
研究分担者	宇佐美 まゆみ  (Usami Mayumi)  (90255894)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・教授   (62618)	
研究分担者	小柳 かおる  (Koyanagi Kaoru)  (90306978)	上智大学・言語教育研究センター・教授   (32621)	
研究分担者	石川 慎一郎  (Ishikawa Shinichiro)  (90320994)	神戸大学・大学教育推進機構・教授   (14501)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	今井 新悟  (IMAI Shingo)		
研究協力者	金田 智子  (KANEDA Tomoko)		
研究協力者	川崎 千枝見  (KAWASAKI Chiemi)		
研究協力者	小口 悠紀子  (KOGUCHI Yukiko)		
研究協力者	小西 円  (KONISHI Madoka)		
研究協力者	小林 典子  (KOBAYASHI Noriko)		
研究協力者	近藤 妙子  (KONDOU Taeko)		
研究協力者	酒井 たか子  (SAKAI Takako)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐々木 藍子  (SASAKI Aiko)		
研究協力者	嶋田 和子  (SHIMADA Kazuko)		
研究協力者	須賀 和香子  (SUGA Wakako)		
研究協力者	陳 エン如  (CHEN Yenju)		
研究協力者	中石 ゆうこ  (NAKAISHI Yuuko)		
研究協力者	仁科 喜久子  (NISHINA Kikuko)		
研究協力者	パルデシ プラシャント  (PARDESHI Prashant)		
研究協力者	古本 裕美  (FURUMOTO Yumi)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	細井 陽子  (HOSOI Youko)		
研究協力者	峯 布由紀  (MINE Fuyuki)		
研究協力者	八木 豊  (YAGI Yutaka)		
研究協力者	山内 豊  (YAMAUCHI Yutaka)		
研究協力者	スルヤディムリア アグス・スヘルマン  (SURYADIMULYA Agus Suherman)		
研究協力者	カオ レ・コンチー  (CAO Le Dung Chi)		
研究協力者	白井 恭弘  (SHIRAI Yasuhiro)		
研究協力者	鈴木 裕子  (SUZUKI Yuuko)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	メタピスィット タサニー (METHAPISIT Tasanee)		
研究協力者	崔 延朱 (CHOI Younjoo)		
研究協力者	張 超 (ZHANG Chao)		
研究協力者	張 佩霞 (ZHANG Pei-xia)		
研究協力者	曹 英南 (CHO Young-Nam)		
研究協力者	トムソン 千尋 (THOMSON Chihiro)		
研究協力者	中広 美江 (NAKAHIRO Mie)		
研究協力者	東 伴子 (HIGASHI Tomoko)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	マダドナー めぐみ  (MADERDONNER Megumi)		
研究協力者	南 雅彦  (MINAMI Masahiko)		
研究協力者	尹 鎬淑  (YOUN Ho Sook)		
研究協力者	頼 錦雀  (LAI Jiin-Chiueh)		
研究協力者	劉 怡伶  (LIU Yi-Ling)		
研究協力者	若井 誠二  (WAKAI Seiji)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 日本語学習者コーパス「I-JAS」完成記念シンポジウム Japanese Language Learners Corpus Completion Commemorative Symposium	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 第四回学習者コーパス・ワークショップ&シンポジウム - 第二言語習得における語彙の役割 -	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 第三回学習者コーパス・ワークショップ - 学習者コーパスから第二言語習得を考える -	開催年 2017年～2017年



国際研究集会 第二回学習者コーパス・ワークショップ - 学習者コーパス利用の可能性を考える -	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 第一回学習者コーパス・ワークショップ - 学習者コーパス (I-JAS) を利用するために -	開催年 2016年～2016年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	湖南大学	北京日本学研究中心	北京師範大学	
オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学			
スペイン	コンテンブルセ大学			
フランス	グルノーブル・アルプ大学			
韓国	高麗大学			